

# 中期計画 (2019～2024)

## 千里国際 中等部・高等部 責任者名：千里国際中等部・高 等部校長

各学校での承認  
2024年2月19日  
千里国際キャンパス  
運営委員会

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p><b>1. 人材育成、教育の方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>世界市民育成：「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てるキリスト教主義教育に基づく全人教育を実践する。</li> <li>学習内容、方法、評価の改革：Kwansei コンピテンシーに繋がるSIS Learning Compassに基づいて学習者とのパートナーシップを保ちながら社会の変化に対応した学習内容、方法、評価の改革をすすめる。</li> <li>6年間を通して育てる能力や資質の明確化：SOISでの学校生活を通して身につけてほしい能力や資質の共通理解と、段階的な指導・支援計画の確立と実践。</li> <li>バイリンガル環境の充実と学習の個別化の推進：SOISのバイリンガル環境・文化をさらに豊かなものに発展させる。ブリッジングセンター(バイリンガルサポート)のサポートを広げ、学習活動や評価に個別化の視点と習慣を積極的に導入する。</li> <li>Digital Technology、Creativity、Critical Thinking &amp; Collaboration の展開：教科の枠を超えた学習活動や問題解決学習・起業活動の推進。</li> <li>世界標準の教育：SOISの特徴や文化を基盤に国際的に通用する教育活動を提供する。</li> <li>卒業後進路：関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。一人ひとりの希望や現状に合った進路指導をすすめる。</li> <li>学ぶ学校：生徒だけでなく教員も学び続け、組織として成長する仕組みや文化を学校全体として創りだす。</li> </ol>	<p><b>＜2024年度のありたい状態＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5 Respects, Kwansei コンピテンシー、SIS Learning Competencies, SIS Learning Compass の系統的なつながりがすべての教育活動に反映</li> <li>学院行事への積極的参加</li> <li>奉仕活動 Service Learning の導入</li> <li>AI、PBL、起業、Innovation などユニークな高大連携の学習機会の創出</li> <li>深い学びを実現する学習内容、方法、評価の確立 - SIS スタンダード</li> <li>ブリッジングセンター(バイリンガルサポート)の運営、情報発信</li> <li>Idea Forum(教職員の学習の場)の充実と多様化。</li> <li>Learning Fair(教育関係者を対象とした実践発表会)の開催。</li> </ul>
<p><b>2. 児童・生徒獲得の方針</b></p> <p>SISの生徒構成(帰国生と一般生が約1対1の比率)は、この学校の特徴であり魅力でもある。これを維持するために、これまでの方法を見直し、効果的で効率の良いシステムを確立していく。</p> <p>学校のPRは生徒獲得のためになされるのではなく、学校の教育活動や生徒たちの活動・活躍を社会に広めることを基本方針とする。</p>	<p><b>＜2024年度のありたい状態＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックリレーションズ + マーケティングチームによる効果的で革新的な広報活動とブランディング</li> <li>生徒獲得を目的とするものから学校と教育活動を知ってもらうことを主眼に置く広報に転換</li> <li>媒体のデジタル化、オンライン化</li> <li>SNSの有効活用</li> <li>Segmentation(市場の分類化)             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 入学の可能性が高い保護者</li> </ul> </li> </ul>

層・児童層に焦点を当てた効果的な広報活動へ転換

- SNS の効果的活用(Facebook, Instagram, Peatix 等)- たとえば、2023 年 9 月 2 日のキャンパスツアーには 70 組の枠が 2 時間半で埋まり、100 人を超えるキャンセル待ちが出た。
- Homepage のデザインや内容の継続的な更新
- 紙媒体のパンフレットをなくし、SIS の Key concepts の絵葉書を作成、配布
- キャンパスツアー、放課後体験、ワークショップ、Online 学校説明会などを展開

### 3. 中期的な課題

#### <フェーズ 2(2022~2024)>

##### 学習内容・方法・評価の改善:

- 学習プログラムの開発 - 個別最適化の推進: すべての子どもたちが深く学び成長する学習プログラム
- 学習指導法の開発 - 構造的思考力、批判的思考力、創造力の伸長: すべての子どもたちが深く学び成長する学習形態
- 学習評価の改善と開発 - すべての子どもたちの成長を正しく測定し常時伝える学習評価法と配信システムの開発

##### より良い学習環境の創出:

- Kwansai コンピテンシー、SIS ラーニングコンパスを具現化する学習環境の創出

##### 自分にあった進路選択:

- KGU 進学に必要な GPA 基準を全 12 年生が獲得するための個別指導 - 2023 年度では成績基準に到達できなかった生徒は全体の 12%

##### 教育と組織の質の向上:

- 学習共同体の創出: コエージェンシー(生徒と教師が共に学習を組み立てる)を基盤とする水平な学校文化
- SIS スタンダード(世界標準の学習内容、方法、評価)の開発と展開

##### 一人ひとりの生徒に寄り添う:

- ブリッジングセンター(帰国生サポート)の運営、情報発信: SIS の特色の確立

##### 組織の再編:

- ブランドアイデンティティと戦略の確立
- パブリックリレーションズ + マーケティングチームの確立
- プロフェッショナル グロース(専門的成長)リーダーの任命: 系統的な研修と実践研究
- リーダーシップワークショップの開設: 次期リーダーの育成と現リーダーの資質向上をめざす定期的な研修会
- 校務分掌組織の改編 - スチューデントラーニングチーム(生徒の知的発達に関わる校務)とスチューデントライフチーム(生徒の精神的社会的成長に関わる校務)を中核とする生徒中心主義の組織

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】 として取り組むものに○
1 関西学院のアイデンティティの共有	○
2 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上)	○
3 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討	
4 学習環境、業務環境の改善	○
5 言語(日本語)、学習サポート体制の確立	○
6 IBDP日本語授業導入(再度)検討	
7 海外大学進学者増	
8 受験者増のための広報全般	
9 KG コンピテンシー+SIS Learning Compass に基づく深い学びの実現(SIS スタンダード)	3 の発展形
10 Future Pathways: 一人ひとりの将来設計に丁寧に寄り添う	7,8 の発展形

### 【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- ① スクールモットーの認知度・共感度
- ② 大学への内部進学率
- ③ 主体的で深い学びを実践する(SIS スタンダード)
- ④ ICTの効果的な活用
- ⑤ ブリッジングセンター
- ⑥ 自分に合った学校選び Future Pathways
- ⑦ 受験者数
- ⑧ 生徒成長指数

### 【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2024年3月末時点)

#### <1. 2023年度の中期計画の状況、課題>

- 2023年度の全受験者数が減少したが、すでに開始した24年度入試(23年11月海外生入試、24年1月帰国生入試、24年1月一般生・国際生入試)の受験者数は、23年度の全受験者数を超えている。
- 2023年度後半に実施した広報関連のイベントへの注目度は高かった。(総参加者数1218名)
- 関西学院大学への内部進学者が60%に増加した。
- 深い学びを創出する取り組みは継続されているが、教員の総意としてさらに意識の中に浸透していく必要がある。
- より良い学習環境の創出のために教職員とのヒアリングを丁寧に実施した。

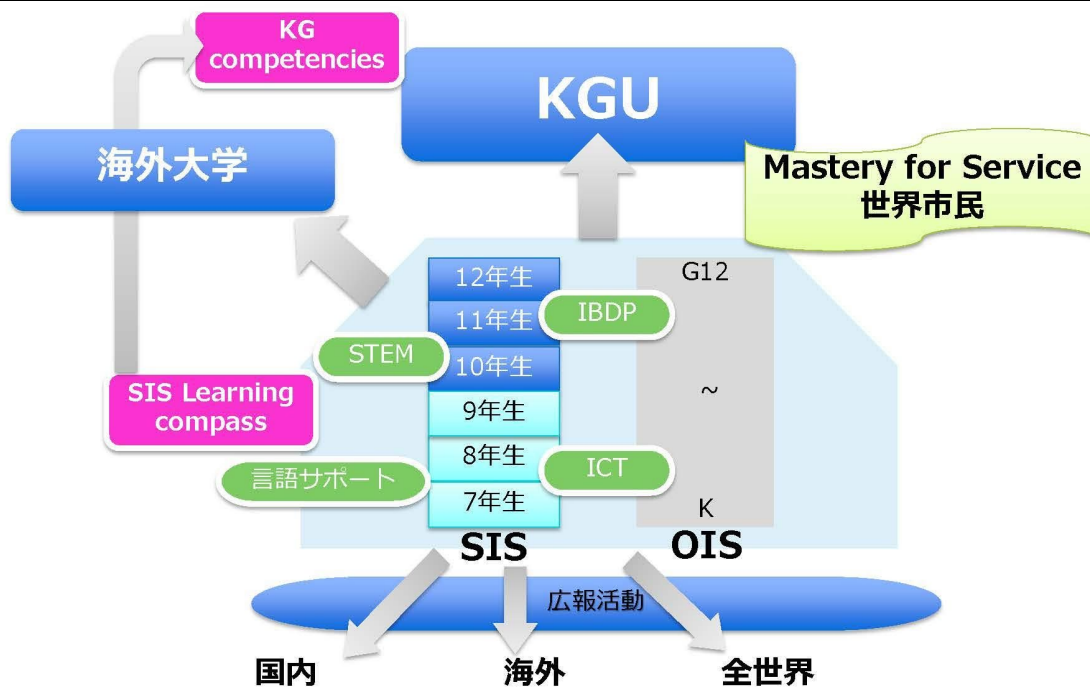
#### <2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

- 関西学院大学や各学校との連携や交流がこれまでになかった領域やレベルに発展したこと。
- 宗教主事の着任により関西学院の宗教活動にSISとして正式に参加することが可能になったこと。名実ともに関西学院のアイデンティティを共有することができるようになったこと。
- 学習活動について肯定的な評価が高いが、経年比較すると向上がないことも課題として受け止める必要がある。

### <3. 上記1, 2を踏まえた2024年度以降に向けた展望>

- 学校改革のひとつとして、情報の量と質を高め学校コミュニティの成員がいつでもどこでも必要な情報が得られるようなシステムを提供しているが、それでも3者からの評価が低くなる理由を考察し改善していく。
- 学習者として教員が学び、互いに専門性を上げる習慣は定着しており、文化として育まれている。小さな成果を拾い上げて、全員が認め合い称え合うことを通して達成感や成功感を共有できる環境を創りあげていく。
- PRマーケティングにとどまらず、学校運営としてSISの独自性や個性をさらに明確に追求し、より多くの方々に共感や感動を提供する機会を開拓し実践していく。

#### 取り組みの全体像(イメージ)



以上